

「ニホンオオカミ」お貸しします

権禰宜 馬場 慶太郎

皆様ご周知の通り、当社には御眷属として『大口真神（おおくちまがみ・おいぬさま）』がお祀りされています。ニホンオオカミをモデルとし、当社奥の院にお祀りされる『日本武尊』に付従う神様として祀られ、農村を荒らす害獣除けや盗難除けなど、あらゆる厄を除けて下さる神様として、江戸時代からは主に関東地方の農家を中心に信仰を集めました。

当社では、その大口真神様を模したお札を数種類頒布致しておりますが、中でも紙製の切り札にならんで古くからお分かちされ、形体も特殊なお札に『大口真神引替札』があります。

玄関・門柱などに祀られた狼を模したお札を見た事があると思います。大口真神様のお札として最も広く頒布されているのはその「切り札」ですが、引替札は木製の箱の中に内芯（ご神体）を入れ、羽織に包んで麻紐で縛った「箱札」です。羽織にはお札を受けた日付とお名前が書かれることが一般的です。古くから「講」の方を中心にお分かちされており、多くはお稲荷様などと同様に屋敷の庭に専用のお社を設けて安置され、所謂分社のように、まさに神様を“お貸り”するように祀られます。

引替札は一体一体、神職（御師）による手作りであり、お札を入れる箱は繰り返し使用するため焚き上げせず、一年おきに神社もしくは担当の宿坊にお返ししなければなりません。

近年ではおいぬさま信仰の拡がりから、全国各地から一般の授与も増えており、神棚等にお祀りされる方もいらつしやいます。

ご自宅や各営業所などのあらゆる難を除けて下さる有難い神様です。おいぬさまのご守護が必要な方、『一家に一体、“お貸し”します。』



令和五年御頒布初め申候

愛犬みくじ

此の世に在る櫛の齒の数だけ物事ヲ占ひ智恵ヲ授クと伝ふ櫛麻智命様の御力をいたゞき愛犬と飼ひ主の運勢ヲ占ひ

新解釈「犬の気持ち名言」付



- 各種祈禱済
犬シール守
全六種付属
- 健康長寿
 - 良縁成就
 - 心願成就
 - 厄難消除
 - 交通安全
 - 開運招福

座鎮上頂山岳御州武
社神嶽御蔵武
地番六七一 山岳御市梅青
(ル上道鉄山登岳御)
番〇〇五八八七 話電

御初穂料 一金貳〇〇圓也

徒然ばなし

『帰ってきた何足の草鞋?!』

権瀬宜 久保田 享



YouTube 御岳山Life
「法継ぎ」こちらから↑

私がこの山に帰ってきた早二十年が立ちました。神主として神社に奉仕する傍ら、家に帰りお客様をもてなし、観光について会議に参加し、消防団員として人命救助を行うなど「何足の草鞋」を履いています。今回はそんな私の家業である、御師の入口「法継ぎ」についてお話ししたいと思います。

私は久保田家の第十七代目として生を受けました。小さい頃から、家族にこの家を継ぎなさいと特に云われた事は無いのですが、山の住民や関係する人々に無言のプレッシャーを頂き現在に至ります。御岳山で御師の資格を取るには法継ぎという修行をこなす必要はありません。今年は私の息子が第十八代目として法継ぎを受けました。その内容は一週間、神社に寝泊まりし、朝夕は滝行、昼は祭典作法や着物の着付け、祝詞の読み書き、清掃等を行います。食事は質素でおかゆと味噌汁、漬け物があるぐらいです。

第一日目には食事前の火熾しを「舞錐式火熾し」という道具を使用するのですが、これは中々火が着きません。火をおこさなければ食事にはありつけませんので、十代の若者たちは必死です。こうして火の有り難みや、先人達が築いた文明に感謝するのです。

滝行は毎日、朝六時、夕十六時三十分の2回行います。そこには先輩達が指導に駆けつけてくれます。ここでは自分たちが多くの人々に支えられて居る事を感じる場となります。

あれよ、あれよという間に時間だけが過ぎていき、最終日を迎えます。最終日には実際に装束に着装し、御神殿にて祭典を執り行います。指導者や保護者に見つめられ、とても緊張して奉仕を終えます。

自分が十七才で経験した事を自分の息子が経験する。こうして過去から未来に紡がれてきたのだと、そしてこの山にはその伝統を先人達が築き、今に続いていることに感謝致します。



御岳山売店知行

亀屋



初代 須崎貞雄さんによる
講中戦勝祈願の集合写真

神代ケヤキの坂道を登りきると売店が立ち並びノスタルジックな雰囲気を出します。江戸の時代より参拝者をもてなす商店街である。その一番手前であり甘味処として常連や女性客で賑わうのが売店「亀屋」である。

現在は女将の里子さんと長男長女の三人で店を営んでおり、その歴史は三代前の須崎栄さんが大正時代にこの場所に店を構えた事に始まる。須崎家は武蔵御嶽神社の社家でもあった。多くの講中氏子を抱え、先代克雄さんの時まで代々御師として神社に奉職をしていた。天狗岩の烏天狗像や襖場綾紘の鳥居など多くの寄進に携わり、御名を神社に残している。

店の中に入ると大正時代の趣が随所に視られ、特に欄間や店名の額などに開業当時の店主のこだわりを感じる事ができる。対応する里子さんの人柄も相俟ってなんとも居心地が良く、つい長居してしまふ。

亀屋の人気はやはり三十年以上続く自家製「わらび餅」と「麴の甘酒」で、参拝客だけでなく山上住民にもファンが多く、筆者もその美味に魅了された一人である。

御嶽詣や登山の際は、売店亀屋の絶品甘味を堪能するのはいかがだろうか。



数々の登山者を虜にした亀屋の自家製わらび餅